

教育・保育目標 心身ともに健やかでいきいきと生活する子どもの育成		重点目標 「安心と挑戦の繰り返しから考える保育」 ～対話の中で子ども理解の深化を図る～		
重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価（成果・課題・改善策）	学校関係者評価	
「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> 「生きる力の土台となる自己肯定感を育む関わり方」について考える機会を持つことで、愛情深い教育・保育を行っていきけるよう職員の意識を高めていく。 子ども達が安心して過ごす事ができるよう、日々の声かけや関わり方についてクラスの職員間で一日数分でも意識して話し合いを行う。話し合った内容を幼児・乳児会議、全体会議で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心、挑戦、意欲について職員会議で少人数グループに分かれて話し合いをし、全体で共有した。一人ひとりが受け止めてもらえた事が自己肯定感に繋がっていることを再確認した。 乳児は身近な保育者とわらべうたや触れ合い遊びなどを行い、温かく受容的な関わりを通じて自分を肯定する気持ちが芽生えている。 幼児では「やってみたい」「明日もやりたい」という気持ちを受け止め、遊びが継続できる環境について意見を出し合いゾーン遊びを構成した。その結果、安心して興味のある遊びを見つけ、楽しむ姿に繋がっている。今後も引き続き、子ども達が安心して過ごす事ができるよう職員同士対話を心掛け、愛情深い教育・保育を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の子どもに関する情報の全体共有と職員間の対話により自己肯定感を育む関わりに繋がっている。 「愛情」いっぱい園生活を送っていると思うと保護者も安心できる。 	◎
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 季節の食べ物や園で収穫した野菜について、調理職員や担当が子どもに話をする機会を年に6回以上もち、関心が持てるような掲示を行う。 ホームページや玄関掲示を活用しながら人気メニューのレシピを玄関配布し、保護者にも食育について啓発する。 養護教諭が行う「ほけんのはなし」の内容を保護者にもわかりやすく毎月ほけんだよりで知らせると共に、ホームページの掲載も年に2回以上は行う。 近年子どもたちの生活において睡眠時間の不足が問題となっている。神津こども園でも「ほけんのはなし」において子ども達に睡眠の大切さを知らせると共に、玄関掲示などでも保護者に知らせていく。 身体を動かす心地よさを感じるために猪名川や小学校に行くようにし、子どもが進んで身体を動かす機会を持つ。また気候の良い時期には積極的に散歩を取り入れるようにする。 保育者がSDGsの観点を意識して食や健康について子どもに話をしたり一緒に考えたりできるような機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 旬の食べ物を調理職員や担当職員が直接子ども達に話す機会を10回もった。調理風景やドキュメンテーションを玄関に掲示することで保護者への啓発にも繋がった。 給食のレシピ掲載は玄関配布と共にホームページでの掲載回数を増やしたことでより保護者に食育について啓発することができた。 「ほけんのはなし」について毎月ほけんだよりで知らせたが、ホームページの掲載は2度にとどまった。年間計画的に掲載できるようにしたい。 気候の良い時期は、毎日、散歩に出掛けることができた。行きたい時に子どもが見通しをもち進んで必要なものを準備できる環境を整えたことで、園外でも身体を十分に動かし心地よく過ごせた。 睡眠に関する話を年3回以上子ども達に伝える機会を持った。紙芝居や絵本を通して睡眠の大切さを考えることができ、その様子を玄関に掲示することで保護者にも知らせることができた。 SDGsについての話を聞く機会を持ったり、園内に掲示をしたりすることで子どもの意識づけに繋がった。またその取り組み内容についてドキュメンテーションを通して保護者にも知らせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「食＝生」であることを直接、調理職員が啓発活動を行うことは、子どもたちの食への興味に効果的である 睡眠の大切さについて、幼児期から知ることが大事であり、保護者への啓発も行いながら、今後も指導と支援に取り組んでいく。 	○
資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 幼児では、年に3回以上視覚的な写真を用いたドキュメンテーションや読み取りシートなどを活用し、子どもの姿を共有することで、子ども達がより自ら考え工夫して遊ぶ環境へと再構成する。 乳児は月1回以上、毎月保護者に送る子どもの遊びの姿を活用し、本年の重点目標（安心と挑戦）を意識して子どもの育ちを読み取り、環境構成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育での資料（読み取りシート）作りでは、3つの資質能力に加え、重点目標にあげている「安心と挑戦の繰り返しから考える保育」の「安心と挑戦」についても記載できるように再構成した。そのシートを使って、子どもの姿から資質能力についての語り合いを行う中で、保育環境の土台となっている子どもにとっての「安心」がより資質能力を育てていると認識した。 写真を使ったドキュメンテーションや読み取りシートなどを活用し、2か月に1回個別に配信した。また、職員間で子どもの姿を共有しゾーン遊びに必要な環境を構成しながら、子ども達が意欲的に活動できるように保育を行った。 乳児は月に個人カリキュラムなどを基に、子どもの育ちを「安心と挑戦」及び3つの資質能力の観点を意識して読み取り配信した。また、読み取った子どもの姿から適宜環境構成を再構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安心して環境を整え、主体的に挑戦する姿を意識することができた。 職員間での更なる環境構成の工夫や保護者との共有・啓発も進められた。 	○
ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 幼児クラスでは、子ども皆が自分の思いを出し認め合える対話の場をもつ。週に1度は全員の子どものスポットがあたるようにする。対話の内容については保育者が計画する。4・5歳児は話題によっては話す人数を調整し一人一人の思いや考えを引き出し、話すことや聞くことをじっくりできるようにする。 年に2回程度、普段の保育の振り返りをしたり、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて子どもとの関わり方について考えたりし職員間で対話する機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児クラスでは日々の生活の中で自分の思いを保育者や友達に伝え、受け止めてもらえるよう関わった。年度後半には皆の前で伝え合う機会を設けた。4・5歳児クラスでは週に3～5回程度クラスで話し合う場（サークルタイム）を設けた。相手の気持ちを考える言葉や戦争についてなど様々な話題で話し合うことができた。しかし、話すことが苦手な子が思いを伝えづらい姿もあったため、子どもが安心して話すことができるような関わりや環境を作っていくことが課題である。 職員会議の際に人権について話し合ったり自分の保育を振り返ったりする機会を3回設けた。不適切保育について職員間で対話することで子どもとの関わり方を見直すことができた。今後は定期的に見直す機会をもち啓発につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝える場を3歳児から経験することで4・5歳児では、ちがいを認め合う姿に繋がっていた。 話すこと、聞くことの大切さを知ることは、架け橋期には必要である。 	○
保育者の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 園内研究の充実 <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ「安心と挑戦の繰り返しから考える保育」～対話の中で子ども理解の深化を図る～について職員間で日常的な語り合いを行い、子ども理解を深めながら、保育の環境づくりを行っていく。 職員研修では、個々で学んだ研修は、一週間以内に報告し、職員全体の学びへと繋げる。 チーム保育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの状況や必要に応じてクラスや学年などで話し合いを随時行い、話し合ったことを全体の会議などで共有し、チーム保育を意識した保育に繋げていく。 職員会議で、チーム保育についての話し合いを年に2回ほど設けチーム保育についての認識を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議や話し合いの場を意図的にもち、職員間で対話を重ねた。身近な大人が寄り添い気持ちを受け止めてもらう経験を繰り返すことで「安心」を得られ、意欲につながり自己発揮できるという考えを共通認識し教育・保育に取り組んだ。多種多様な職員で子どもの「今」を伝え合うことで多面的に子どもの姿を捉え、情報共有することで、一人一人の安心できる保育環境づくりに繋がっている。 研修や他施設との交流、視察など積極的に参加し、職員同士の対話や情報、資料提供から多くの学びを得ることができたので、今後、その学びを日々の保育実践につなげていきたい。 幼児はゾーン遊びを取り入れたことで、学年を越えて子どもの姿を読み取り共有することができた。 乳児は、各クラスで活動することが多かったため、月齢や個々の姿を捉えながら職員で連携して保育をすすめていくことが課題である。 「チーム保育とは」についてグループディスカッションを年に2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心感から自己発揮できる子どもの姿についての理解を職員間で深め環境づくりに活かしている。 	○
開かれた・信頼される園づくり	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教育との接続 <ul style="list-style-type: none"> 小学校職員に向けて架け橋期の教育推進事業を進めるとともに、参観などで子どもの様子を見てもらう機会をもつ。こどもだよりや撮影した動画を通して普段の子どもの姿を伝えたりする。また、資質・能力の育ちや10の姿の観点を踏まえた資料を配布し、こども園での活動を発信していく。 授業見学、小学校交流などの活動を通して、子ども中心に小学校が身近に感じられる機会をもつ。小学校で使う教科書を掲示し、保護者に向けても、進学する不安を取り除けるようにする。 幼小接続期カリキュラムを職員に周知すると共に、カリキュラムに合わせて保育を進めていく。 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> Kメゾンときめきの団らん交流会や町の先生の来園を通して地域交流の機会を年3回持つ。 5歳児クラスを中心に地域の畑を訪問やひょうたんの栽培を通して神津地域の特産物を知る機会を持つ。 神津交流センター訪問やさつま汁を地域の方と共に 	<ul style="list-style-type: none"> 7月、1月の地域部会にて園の子どもの様子を見てもらったり、動画『遊びは学び』の視聴などを通して、教職員間の有意義な意見交換ができた。また職員の保育観や教育観についても具体的な共有ができて、子ども理解が深まった。 小学校交流では、1年生との関わりを中心に、小学校の生活について知る機会となり、就学への憧れや期待が膨らんだ。また、実際に小学校で使用している教科書を園内に掲示することで、親子での会話に繋がった。 保護者の就学への不安を取り除く目的として就学児懇談会を開催した。不安に思っている事や疑問点を共有し合う場となり、不安を取り除くことができた。 幼小接続期カリキュラムを職員室に掲示し、いつでも職員が意識できるようにした。カリキュラムに沿って保育をすすめてきたが、学年によって温度差があった。次年度は、全学年職員の共通意識や対話に繋がられるように、職員間で振り返りができる体制を整えたい。 Kメゾンときめきの訪問やシルバーフェスティバルの参加、町の先生の訪問により年3回以上の交流が持てた。また、地域のトマト農園の訪問やひょうたんの栽培、絵付けを通して特産物に触れ、地域を知るきっかけになった。ひょうたんの絵付けは今年度が最後になる。 さつま汁クッキング等、地域ボランティアの協力のもと交流をすることができ、 	<ul style="list-style-type: none"> 接続期カリキュラムの作成を通じ、入学に当たって子どもを取り巻く様々な変化について地域部会など率直に意見交流を行った。こども園での学びを活かした小学校生活への理解に繋がっている。 	◎
			<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活かした様々な体験を重ね地域とのつながりや愛着を深めている。 	◎

	い、地域を知るきっかけ作りを行う。 ・評議員の方を招き、実際の園内の環境や子どもの姿、今求められている教育・保育について伝え、よりこども園を知って頂く機会を年2回持つ	子ども達にとって豊かな経験となった。これからもより地域の方との関わりを大切に、見守られている、感謝の気持ちをもつ、ということ伝えていきたい。 ・評価・評議委員会を開催し、園が大切にしている事や子どもの姿を見て様々な意見を頂いた。指導・助言については職員間で周知徹底し、子どもの心に寄り添った「安心」につながる保育を次年度も目指していきたい。		
子育て支援事業	・ホームページで月1回、むっくむっくルームの様子を配信し、利用者を増やす。担当者に限らず、全職員がむっくむっくルームを利用する地域の方と関わりを持つ。 ・子育て家庭の不安を取り除き、楽しんで子育てができるように懇談会などの場で子育てについて話し合う時間を作る。担任はクラスの保護者全員と月に一回以上話すようにする。	・むっくむっくルームの様子や「みんなのひろば」、「らんらんランチ」などの予定をホームページで見て来園する人も増えてきている。これからも継続してホームページで配信し、地域に根差した子育て支援をしていきたい。 ・保護者アンケートでは、「こども園は、お子さんのことについて、保護者の方と話すことができているか。」の質問に肯定的な回答が95.5%（昨年↑2.2%）であった。今後も継続していきたい。	・むっくルームでの関わりを通して全職員で地域における子育て支援に取り組み充実を図っている。	◎
学校園の積極的な発信	・遊びの中での学びや大切にしたいことをこどもだよりで週に1回、一人一人の子どもの姿を幼児は2か月に1回、乳児は月に1回保護者に配信する。 ・ホームページで年18回以上園の取り組みを発信する。 ・動画を通して伝えたい子どもの様子を年5回以上配信していく。 ・園内リスクマップの見直しを行い、こども園の環境についての発信、啓発を行っていく。	・全クラス定期的に配信することができた。保護者アンケートの「こども園は園だよりやこどもだより、掲示物、保育システム（icuco）、ホームページなどで教育・保育の内容をわかりやすく発信していますか。」の肯定的な回答が97%以上あった。引き続き定期的に配信を行い地域や保護者との連携を図っていく。 ・行事の様子を年5回以上配信することができた。「(当日の)様子がよく伝わってきた。」という保護者の声があった。次年度も動画の配信を増やしていきたい。 ・職員間でリスクマップの見直しや園庭整備を行い、こども園の環境についての発信を行うことができた。来年度もマップを見直し、こども園について知ってもらえる発信、啓発をしていきたい。	・定期的な取り組みや配信により、園での学びや大切にしている事が保護者や関係者に詳しく伝わり理解を得られている。	◎
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。 			
学校関係者評価総括 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの資質・能力を育むため、全職員がチームとなって協働し、子どもが主体的に活動する環境づくりを進めている。 ・園での保育で育まれた力を基に、小学校での学びにつながるカリキュラムや活動について理解を深め実践につなげた。 		次年度に向けた重点的な改善点 <ul style="list-style-type: none"> ・2027年認定こども園教育・保育要領の改定に伴う教育・保育の見直し（指導と評価の改善、育みたい資質・能力のあり方、子育て支援の充実） ・チーム保育を推進していくための、園全体での共有、対話の工夫 ・保育システムの活用 		